

特定非営利活動法人エク・プロジェクト 設立趣旨書

- 1 日本のクラシック音楽の世界において室内楽、とりわけ「弦楽四重奏」の分野は音楽家にとって研究意欲をかき立てられる分野である。それは古今東西の作曲家の優れた作品群をみても明らかである。聴衆にとっても、弦楽四重奏はオーケストラの様に大仰でなく、気軽に質の高い作品を鑑賞できる対象なのである。
- 2 しかしながら、欧米に比べると日本では常設の弦楽四重奏団は極めて少ない。日本では、「弦楽四重奏では生活していけない」と常識的に言われており、弦楽四重奏団の奏者が、弦楽四重奏のみで生活を維持することは極めて困難な状況である。実際に、日本の弦楽四重奏団の奏者の多くは、オーケストラの団員との兼任や、教職の兼務で自らの生活を維持しているところである。その一方で、弦楽四重奏普及のためには、小規模公演が不可欠であるところ、非常設の弦楽四重奏団では、その活動に制限があり、小規模公演を多数機動的に実施することは難しいところである。
- 3 小規模公演、とりわけ初心者対象のコミュニティコンサートでは初めてクラシックに接する人も多い。そのような人たちにこそ、聴きやすい気軽な音楽だけでなく、質の高い弦楽四重奏の名曲が提供されるべきである。至高の作品に直接接触することで、聴衆には多くの希望が与えられることになるのである。また、クラシック音楽の聴衆を新たに開拓していくためには、音楽家が積極的に聴衆にアプローチし、聴衆の元へ出向き、演奏することも必要である。そのためにも常設の弦楽四重奏団の存在は不可欠である。
- 4 弦楽四重奏を普及させ、常設の弦楽四重奏団を存続・維持するために、本団体は、首都圏や地方での定期演奏会、コミュニティコンサートを開催し、既に組織されていた「クアルテット・エクセルシオ」を本団体の常設弦楽四重奏団として、出演させてきた。今後、会員がパイプ役となり、企画の段階から参加して、公演を開催するために、「試演会」、「交流会」等の開催もあわせて行ってきた。また、東京会場で実施した定期演奏会の会場において毎回会員による公演開催の様子をパネル展示し、ウェブページでその活動を開示してきた。
- 5 今後、クアルテット・エクセルシオをはじめとして、本団体が演奏事業や普及・教育活動を実施し、公演数を増やすことで、常設の弦楽四重奏団を存続・維持していきたい。これにより、一般市民は、芸術性の高い作品に接する機会が増え、自己の内面と向き合う充実した時間を有し、満ち足りた人生を歩んでいくことの一助となると確信している。また、常設団体の存在が、これから弦楽四重奏をめざす若い世代にも大きな希望と勇気をもたらすことになるとも確信している。本団体の活動により、クラシック音楽、とりわけ弦楽四重奏の鑑賞・演奏の両ジャンルを必ず発展に導くものである。
- 6 以上のとおり、弦楽四重奏の社会的認知を高め、常設の弦楽四重奏団が活動可能な環境を作り、もって弦楽四重奏をはじめとする音楽の普及と振興を図り、音楽文化の発展に寄与するため、又、他団体との連携や契約締結等、幅広く活動するためにも、法人格を取得する必要がある、この法人を設立するに至ったものである。

平成20年7月12日

設立代表者 住所

千葉県長生郡長柄町味庄109番地1

氏名 大友 肇 印